



歩こうかい 1月例会(通算 409回)



初詣・蔵の町武豊町をあるく

2026年1月13日(火)

天気:晴れ 参加者 15名 <9,000歩>

名鉄知多武豊駅…武雄神社(初詣)…味噌・たまり蔵…玉鉢神社…芳味(新年会)…名鉄知多武豊駅

冷たい北風が吹き名古屋市近郊が初雪となった前日とは打って変わって、朝から陽射しが暖かい好天で、2026年は幸先良い月例会スタートとなる。

名鉄知多武豊駅に着くとボランティアガイドさんの出迎えがあり、歩こうかいの会員が順次到着し揃う頃には、武豊町観光ガイドボランティア協会の皆さんも7名に増えている。会長の石黒さん曰く、年始で練習を兼ねて参加されているとのこと。挨拶とコース説明を行い、3つのグループに分かれ武雄神社に向かって出発。

武雄神社の創建は奈良時代以前といわれ、知多半島では最も高い社格を持つ神社で、武豊町の名は神社の頭文字をとったもの。ガイドの皆さんと一緒に集合写真を撮り、宮司さんから神社の説明を聞く。



JR武豊駅前の胸像は陶器(常滑焼)で作られているとのことで、昭和 28 年の台風で護岸堤防が決潰(けつかい)し、荒れ狂う濁流と暴風の中で発煙筒を振って迫る列車に危険を知らせ、自らは高波に呑まれ殉職した、国鉄職員・高橋熙(たかはしひろし)氏の功を称え、全国の国鉄職員と小中学生の寄付によって建立された。



JR 武豊駅前に建てられている高橋熙氏の胸像

しばらく歩くと黒板塀の続く趣のある町並みに入る。武豊町は古くから味噌やたまりの醸造業が盛んで、今も 7 軒の製造・加工会社がある。ボランティアガイドさんの手配で、「傳右衛門」の看板をブランドとして創業 200 年を超える老舗の蔵元「伊藤商店」さんを見学。製造工程の説明の後、うす暗い蔵の中を、説明を聞きながら見て回る。



伊藤商店の蔵



昼時も近くなり、明治天皇の父帝孝明天皇を祀る玉鉢神社に参拝し、新年会会場の芳味に向かい、途中でボランティアガイドさんとお別れする。



森会長の年始挨拶の後、臨時総会を行い会則改定案の議決と2026年度年間計画を確認。

新年会は、久保さんの「世界一周船の旅」の報告と乾杯の発声でスタート。和やかな時間を楽しみ、ほろ酔い気分で駅に向かい、名鉄知多武豊駅から帰路に就く。

記:奥村正忠



新年会風景



名鉄知多武豊駅近くの広告塔